

## 今年も鳥インフルエンザのシーズンに入りました

例年、カモ類は越冬のため9～10月にシベリア等から日本国内へ渡りはじめます。昨年は10月下旬に北海道で、11月上旬には鹿児島県で死亡野鳥等から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されましたが、今年はずでに韓国と神奈川県の野鳥から高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されています。さらに、欧米では夏の間も家さんの鳥インフルエンザが続発し、国際獣疫事務局が「世界的大流行」と発表していることから、今シーズンも国内に大量のインフルエンザウイルスが侵入することが危惧されています。

本格的に寒くなる前に、ウイルスの侵入防止対策と健康観察の徹底を始めましょう。

### 1 人・車両などを介したウイルス侵入防止

- 外来者の出入りを制限し、入場車両は必ず消毒しましょう。運転席の足マットも忘れずに！
- 農場内（衛生管理区域内）に入る際は外部から着てきた衣服及び靴を農場専用のものに交換しましょう。更に、鶏舎に入る際は鶏舎専用の衣服及び靴に交換し、手指の消毒を実施しましょう。

### 2 野鳥・野生動物を介したウイルス侵入防止

- 鶏舎には網目2cm角以下の防鳥ネットを張り、破損箇所や隙間を見つけたら直ちに補修しましょう。
- ネズミの侵入経路を見つけ、捕獲装置や殺鼠剤の使用により駆除しましょう。
- 飼料タンク周囲にこぼれ餌がないよう、常にチェックしましょう。
- 鶏舎及び農場周囲の清掃、草刈り、消石灰散布を行い、野生動物の侵入防止に努めましょう。
- 鶏糞処理施設には防鳥ネットを張り、野生動物の侵入を防止しましょう。



集卵ベルト周囲の隙間

### 3 鶏の健康管理

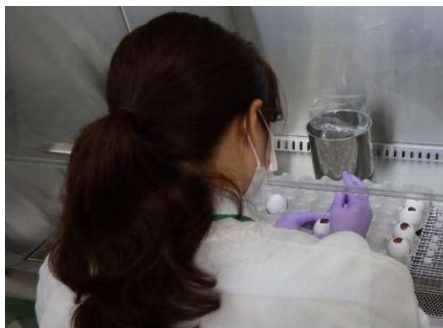
- 導入時はワクチンプログラムの確認や健康状態のチェックを行いましょう。
- 死亡率や産卵率が変化していないか、鶏舎内で異状がないかを毎日確認しましょう。

死亡羽数の増加など、異状を発見したら  
直ちに家畜保健衛生所までご連絡を！

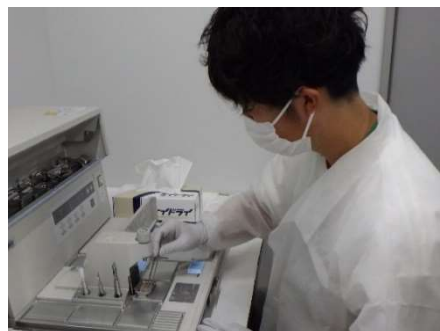


## インターンシップ生を受け入れました

8～9月にかけて、熊本県獣医師インターンシップ及び中央畜産会行政体験研修として、九州内だけでなく遠くは北海道の大学から、合計5人の獣医学生を3期に分けて各5日間受け入れました。



ウイルス検査の体験



病理組織検査材料の作成体験

期間中、県庁や家畜保健衛生所、BSE検査所、畜産研究所、食肉衛生検査所等を訪問し、各場所の業務説明や実習を行いました。

その中でも、中央家保では県内唯一の高度な精密検査機関である検査課を有していることから、ウイルス、細菌、病理及び生化学の各部門において、専門的な検査を丸一日かけて体験しました。大学の実習ではあまり扱わない検査法や測定機器に少し戸惑いながらも積極的に参加しており、将来の進路決定に向け、意欲的に知識を吸収しようとしている様子でした。

職員としても学生のフレッシュな気持ちに触れ、「熊本県の畜産に貢献したい」と入庁した当時の気持ちを改めて実感したひとときでした。

今回インターンシップに参加した学生が、これからの熊本県の畜産を引っ張って行く人材になってくれることを期待しています。

## 近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	型	発生地(国)	畜種	発生年月日
口蹄疫(FMD)	O型	インドネシア	不明	令和4年
アフリカ豚熱(ASF)		ロシア(32件)	豚・野生いのしし	令和4年7月25日
		韓国(1件)	豚	令和4年8月18日
		ロシア	豚	令和4年7月25日

令和4年(2022年)10月3日現在



毎月20日はくまもと家畜防疫の日

定期的な消毒を実施しましょう!

